

Animal manure - Pollutant or Resource? -



主催: 酪農学園大学

共催: 北海道大学SGP, グリーンテクノバンク,
生物系特定産業技術研究支援センター



日時: 7月2日(水) 9:00 ~ 17:00

会場: 酪農学園大学中央館, 学生ホール

家畜ふん尿は、循環型畜産にとって重要な資源である。しかし、畜産の集約化に伴い、ふん尿が環境汚染源として危惧されるようになってきた。本シンポジウムでは、世界各地でのふん尿の利用状況を知り、ふん尿が作物への有効資源となるか、それとも環境汚染源となるかを決定づける要因について論議する。

招待講演者



Hongmin Dong (China): 中国・農業科学院教授
Livestock Manure Management and Utilization in China
(中国における家畜ふん尿の管理と利用)



Ken Smith (UK): 英国・ADAS主任研究員
Towards sustainable recycling of farm manures; in search of practical solutions to technical problems
(ふん尿由来自給肥料の持続的循環利用; 技術的課題の実用的解決を求めて)



Hugo van der Meer (The Netherlands): オランダ・草地研究所上席研究員
Manure production and utilization in The Netherlands
(オランダにおける家畜ふん尿の生産と利用)



Sven Sommer (Denmark): デンマーク・南デンマーク大学教授
Environmentally friendly recycling of livestock manure in Denmark
(デンマークにおける家畜ふん尿の環境に配慮した循環利用)



三枝俊哉 (日本) 北海道立根釧農試・主任研究員
Development and extension of environmentally friendly skills of manure application in dairy farming area of Hokkaido, Japan (北海道の草地酪農地帯における家畜ふん尿の環境に配慮した施与法の開発と普及)



杉本安寛 (日本): 宮崎大学教授
Development of bio-energy production and bio-resource recycling system, with effective use of agricultural waste
(有機資源の有効利用によるバイオエネルギー生産と資源循環システム)

参加費

一般 = 1,000円
(6月21日以降の申込み
= 1,500円)
学生無料

事前登録(6月20日まで)

参加予定者の
氏名, 所属を記載し,
下記へメール送信して下さい。

国際シンポジウム
実行委員会 事務局
matsunak@rakuno.ac.jp